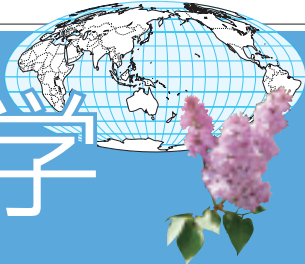


学報

学校法人 北海学園
北海商科大学
商学部〔商学科・観光産業学科〕
アジアの時代に アジアを学ぶ
Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.36
2024.6.13
発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
地下鉄東豊線「学園前」駅直結
TEL:011-841-1161(代表)
FAX:011-841-0801
https://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

3. 学部長挨拶	2面
4. 研究科長・学部長・センター長紹介	2面
5. 卒業式挙行	2面
6. 留学生修了式	2面
7. 入学者選抜結果概要	3面
8. オープンキャンパスの新たな取組み	3面
9. 新年次ガイダンス・新LMS導入・優秀学生表彰	3面
10. サークルの活動紹介	3面
11. 就職状況について	4面
12. 特集 就職支援座談会	4面
13. 北海道起業家甲子園に参加	4面
14. 交換留学生歓迎会開催	5面
15. 留学生紹介	5面
16. 国際交流について	5面
17. 留学だより	5面
18. 「研究のいま」相浦宣徳教授	6面
19. 札幌マツヅクリ大学2023	6面
20. OB・OG NOW!	6面
21. 韓国語・中国語スピーチコンテスト報告	7面
22. 高大連携～北海学園札幌高校で連携授業～	7面
23. データサイエンス科目新たに開講	7面
24. ゼミ訪問 松原ゼミ	7面
25. 新任教員・職員、交換教員紹介	8面
26. 学生相談室ニュースレター11	8面
27. Instagram NOW!	8面
28. 新刊紹介	8面
29. 行事予定	8面

交換留学生を迎え歓迎会開催！



4月20日開催の令和6年度交換留学生歓迎会にて（関連記事5面）

令和6年度 入学式挙行

2024(令和6)年度入学式が4月3日水曜日、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、新入生は学部189名、商学研究科1名、中国煙台大学4名と韓国大田大学校2名の交換留学生の合わせた196名の新入生を迎え、保護者のみなさま、教職員列席のもと挙行されました。

堂徳学長の式辞に続いて新入生を代表して、飯盛あみ(市立札幌平岸高校)さんによる代表宣誓が行われました。

式場は本学の教育目標である「アジアの時代にアジアを学ぶ」を学ぼうとする志を持った新入生の晴れやかな息吹に溢れ、新たな門出を迎えるにふさわしい入学式でした。

(事務長 柴田 敬司)



入学者代表・飯盛あみさんによる入学者宣誓



堂徳将人学長による式辞



令和6年度入学式

2024(令和6)年度 第48回入学式 学長式辞

新入生の皆さん、本学へのご入学、誠にありがとうございます。本日、北海商科大学の新入生190名を迎えられますことを教職員一同、大きな喜びとしております。また、保護者やご家族の皆さま、学校法人北海学園理事長様をはじめ、ご来賓の皆さま、多くの関係の皆様とともに盛大な入学式を挙行できますことは、誠に感慨深いものでございます。と申しますのは、令和2年度より新型コロナウィルス感染症対策として、入学式の中止や内容の縮小を余儀なくされました。ようやくこのような形態をとって、入学式を再開できたのは、昨年度からでしたが、それも、人数制限を設けておりました。本年は、昨年5月の国の感染症対策緩和の方針を踏まえ、こうして入学式を実施できますことを心より嬉しく思います。

入学にあたり、私からは手短ではありますが、皆さんに特に、お伝えしたいことを申し述べます。北海商科大学は、前身の北海学園北見大学から札幌の豊平区に移転し、地下鉄に直結した恵まれた都市環境のもとに開学して、今回で18回目の入学式を迎えました。18年と申しますと、人間に例えれば青年期に当たりますし、新入生の皆さんとともに歩んできた歳月とも言えます。その意味では、北海商科大学の新たな歴史は、この度入学された皆さんが、築き上げて行くものです。教職員一同も、所定の入学試験に見事に合格し、入学された皆さんとともに、進取の気概をもって、独自の校風を築いて行くことを楽しみにしております。

さて、今日はAIやIoT等をはじめとした技術革新が急激に進む一方、グローバル化の行き詰まりや、地球環境問題等の深刻な課題が指摘されるなど、まさに転換期の様相を呈しています。皆さんが選択した大学進学という先のステージには、社会の担い手としての長い人生が待っています。今後も続くと思われる変化の激しい時代は、VUCA時代とも呼ばれるように予測困難なものであり、「よりよい社会の形成者となるための資質・能力」を身に付けることは容易ではないものと思います。しかし、皆さんは高校の三年間、新型コロナ禍において、我慢の多い生活を乗り切りました。この間、「ICTを駆使した個別最適化学びと 行事や部活などに工夫を凝らした協働的な学び」に努めて、しなやかさや逞しさを育まれたたことでしょう。また、一昨年四月からの法令改正に伴い、全員が成人年齢に達しておりますから、成人としての基礎的な資質を身に付けてこられたことでしょう。そうした

皆さんが大学進学 の機会を得ました。もとより、大学は主体的・自律的に学び、人格形成に専心することができる場です。皆さんには、ぜひ、この恵まれた時間と環境を活かされることを期待します。その期待には二つあります。

まずは、「期待される学び」についてです。北海商科大学は、新しいアジアの時代を見据え、言語・文化・社会を基礎に、観光を含めた幅広いビジネス活動に欠かせない基本となる知識を広く深く学ぶ教育を展開しています。そのため、本学では多彩なカリキュラムを用意するとともに、少人数教育を重視し、研究と教育を統合する人材育成プログラムを展開しています。皆さんには教員と学生との交流であるゼミナールをはじめ、用意されたカリキュラムから自らに適合した学習プログラムを創造し、自らをイノベートしていった下さい。このことは、知識の習得のみならず、それらを活用し、自ら進んで探究し続けることで成し遂げられものです。

また、海外提携大学である中国の煙台大学と山東大学、韓国の大田大学校、カナダのレスブリッジ大学とは、積極的な交換留学および各種交流を長く実施してきており、国際的な人材育成に努めています。新型コロナ禍に伴う渡航制限などから、一時は困難となった国際交流も、昨年から再開させており、本年は一層の充実を図ります。さらに、本年度入学された皆さんからは、「データサイエンス・AI論」(リテラシーレベル)を必修科目として開講いたします。これは、DX社会の進展に応じて、AIやデータを活用することが文理の枠組みを越えて必須であるとの考えに立って準備したものですので、是非、そのスキルを向上させて下さい。皆さんには「国際ビジネスと国際観光の分野でリーダーシップを発揮できる優れた人材の育成を目指す」という本学のアドミッション・ポリシーを再認識して、強い信念をもって学習に励んでもらいたいと思います。

次に、「人格の形成」についてです。大学は高校までと違い、自分の行動を自分で律することが求められます。大学四年間をどう過ごすかは、他人が決めることではなく自分で決めることです。有意義な時間を過ごして将来につなげることができるかどうかは自分次第です。自由な時間に流されることなく自分自身を見つめ、何をすべきかを考え、行動して欲しいと思います。とりわけ、高校までの履修主義からノングレードの習得主義へと日常生活が転換される中、自ら進んで友を求め、新たな出会いと有為な体験を通じて、自己鍛錬の日々を過ごしてもらいたいと願っています。

令和6年4月3日 北海商科大学 学長 堂徳 将人

令和6年度 学部長挨拶

商学部長 山田 勅之



DX化を見据えた商学教育の開始

新型コロナウイルス感染症流行対策にともなう様々な制限がほぼ解除されて、キャンパスにはかつての活気が戻ってきました。他方、この数年の地球規模のDX(Digital Transformation)化の進展は著しく、その運用能力の養成が大学教育の新たな任務として課せられるようになりました。

このような社会状況の急激な変化に応じるべく、本学では今年度の入学生より、社会におけるデータサイエンス・AIの活用理解を目標にした「データサイエンス・AI論」を新たに開講し、すでに授業が始められています。さらに次年度以降は、本講義によるDXの基礎の習得を踏まえて、商学科及び観光産業学科といった専攻分野に応じた、より実践的にデータサイエンスとAIを学ぶ講義の新設を予定しております。これにより系統的かつ発展的な学びの実現を図ります。

本学がこれまで培ってきた商学教育と実践的コミュニケーション力養成に、データサイエンスとAIの運用能力を結び付けて、DX社会に対応できる力の習得とともに、社会の先頭に立って活躍できる人材育成を目指して参ります。

3

5

4

6

研究科長・学部長・ センター長紹介

- 大学院研究科長
- 商学部長
- 教務センター長
- 学術発展センター長
- 入試・広報センター長
- キャリア支援センター長
- 学生支援センター長
- 国際交流センター長

- 佐藤 博樹 教授
- 山田 勅之 教授
- 中西 良之 教授
- 相浦 宣徳 教授
- 佐藤 千歳 教授
- 伊藤 寛幸 教授
- 村松 祐二 教授
- 原子 智樹 教授

令和5年度 卒業証書・学位記 授与式挙行

2023(令和5)年度卒業証書・学位記授与式を3月18日(月)、例年同様、中島公園に隣接する札幌パークホテルにて挙行了しました。今年度は多くのご家族が見守るなか、商学部卒業生197名(商学科142名、観光産業学科55名)に卒業証書・学位記が授与され、新たな社会へと学窓を巣立ちました。堂徳将人学長の式辞、卒業証書・学位記の授与に続き、教育免許状授与(代表・佐藤萌香さん)、学業成績優秀学生各1名(商学科・森谷朱梨さん、観光産業学科・佐藤初美さん)に表彰状と記念品が授与されました。

新型コロナウイルス感染症の影響が大きく困難な状況のなかでも、絶えず前向きに有意義な学生生活を過ごすように努力されてきました。今後の新たな活動での活躍に期待しています。



卒業式の後、同所にて「卒業生を送る会」が開催されました。堂徳将人学長、本学同窓会佐藤博樹副会長が祝辞を述べられ、村松学生支援センター長から在学中顕著な活動を行った団体「体育祭・大学祭実行委員会(代表 豊崎未佳さん)」に表彰状と記念品が贈呈されました。参加した卒業生、教職員はこの4年間の学生生活を振り返りながら、学生最後の交流時間を有意義に過ごしました。

(事務長 柴田 敬司)



卒業証書・学位記の授与式（写真上・中左：堂徳学長から成績優秀学生に表彰状授与。左：卒業生集合写真）卒業証書・学位記の授与式と卒業生を送る会

留学生修了式



令和5年度交換留学生修了式を令和6年2月20日正午より学内にて挙行了しました。交換留学生の内訳は、大田大学から3名、中国煙台大学から5名で、合わせて8名でした。まずは本学の堂徳将人学長より一人一人に修了証書が授与され、この8名の修了生に堂徳学長が贈った祝辞には平成18(2006)年度よりの長きに渡る交流を踏まえ、今後も相互理解を深化し続けてほしいとの強い思いが込められ、それは修了生8名にひしひしと伝わっていたに違いありません。修了生みなさんには、国境を越えた架け橋となるよう今後も来札し続けてほしいものです。本学大学院も広く門戸を開け続けることでしょう。修了式後には集合写真を撮影し、そのまま食事会へと移りました。食事での歓談の中では、修了生の各々が自らのお国事情と在札中の様々な出来事とを自らの人生経験の直中へ折り重ね成長を遂げてきた様子を垣間見られた時となりました。修了生みなさんには今後の更なるご活躍をお祈りいたします。(国際交流センター長 原子 智樹)



修了式と集合写真（修了生、堂徳学長、原子国際交流センター長と中・韓語学教員）

令和6年度 入学者選抜結果概要

2024(令和6)年度の入学者選抜は、学校推薦型選抜(指定校制・公募制)と総合型選抜(I期、II期)では、高校までの学びや課外活動の積み重ねについて書類審査と口頭試問によって検討し、本学への進学に向けた意欲や基礎知識を確認しました。一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜は、大学における学びの土台となる基礎学力を確認する内容としました。以下、選抜区分ごとに結果を報告します。

総合型選抜は、試験日が10月のI期と同じく12月のII期とを合わせて53名が出願し、52名が合格しました。前年度と比べ志願者は29名増加しました。

学校推薦型選抜では、指定校制に49名、公募制に6名、併設校に13名の出願がありました。総合型選抜と学校推薦型選抜を合計したいわゆる「年内入試」による入学者は120名(2023年度92名)を数え、入学定員180名の3分の2を占める結果となりました。年内入試による入学者の比率の拡大は全国的な動きであり、本学も同様の傾向を示しています。

これに対し一般選抜(2月8日、13日試験)の志願者は98名と、前年度の114名から16名減少しました。大学入学共通テスト利用選抜も、I期とII期を合わせた募集人員20名に対して志願者160名と、前年度の165名から5名減少しています。

オープンキャンパスの 新たな取り組み

2023(令和5)年度のオープンキャンパスは前年度から2回多い6回を実施しました。来場者の総計は、2022(令和4)年度の368名より110名多い478名でした。多くの高校生と保護者の皆さんがプログラムに参加されたことで、本学の教育の特色に対する理解が進み、年内入試の志願者増に結実したものと推定しています。

2023年度の新たな取り組みとして、学生スタッフを中心となって本学の特色や学生生活を紹介する活動を増やしたところ、来場者から好評でした。例えば学生によるゼミ報告や、来場した高校生と本学の学生が軽食をはさんで交流する「商科カフェ」などです。生き生きとした笑顔と主体的な行動でオープンキャンパスを支えてくれた学生スタッフの皆さんに、この場を借りて心から感謝します。

また初めて年度末に開催した2024(令和6)年3月のオープンキャンパスは「アジアデー」をテーマとし、模擬講義では坂口可奈・講師がアジアの地域研究について紹介し、商科カフェでは東南アジアや中国・韓国の文化を紹介する展示を行いました。ゼミ発表では、SNSを通じて日中韓の若者が相互に交流する実態を学生が報告しました。

2024年度のオープンキャンパスも、前年度に好評だった活動を発展させながら、北海商科大学の魅力をより分かりやすく伝える楽しいイベントとして運営できればと考えております。(入試広報センター 佐藤 千歳)



写真上：坂口可奈先生によるアジア地域研究の模擬講義。下左：語学体験(中国語劉珏先生)、右：「商科カフェ」でアジアのお菓子を楽しみながら現役学生による留学相談(3月24日)

サークル活動の紹介

徹底した感染対策を課せられながら3年ぶりに再開となった一昨年のサークル活動は、2023(令和5)年度に感染対策が各自の自主的判断に委ねられたことで、活動の活発化がみられるようになりました。また、今年度4月の各サークルによる新入生勧誘を目的に貼り出されたポスター(右写真)にも、コロナ禍前の賑わいが感ぜられるようになりました。

本学では昨年度に、軟式野球部、バドミントン部、フットサル部、陸上部、バスケットボール部の体育系5サークルと、環

境ボランティア、軽音楽、中国語、韓国語、教育研究会の文化系5サークルの、合わせて10のサークルが差はあるもののサークル活動をおこないました。また、サークル連合執行部と大学祭・体育祭実行委員会の運営2団体は、すでにコロナ禍前の活動状況に戻っています。

このなかでバドミントン部はコロナ禍より前に一旦休部となっていたサークルでしたが、ここへ昨年春に22名のメンバーが集まり、活動が再開されました。大学入学前の競技経験者はほんの僅かでしたが、大



会への出場や他大学との強化練習試合をおこなうなど、短期間でみごとな復活を果たしました。また、この春は公認サークル昇格に関して、同好会からサークル連合への問い合わせが4〜5件あり、公認サークルの増加も予想されています。

(学生支援センター長 村松 祐二)

2024年度入学者選抜における新たな取り組みとしては、一般選抜と共通テスト利用選抜I期の合格者を対象とした「入学者選抜成績優秀者奨学金」の運用を開始しました。高校と大学の学びの連携を目指す入学前教育の対象者も拡大し、年内入試の合格者が、英語・韓国語・中国語や商学の基礎に触れる課題を、Eラーニングで実施しました。

本学の2024年度の入学者数は前年度の167名より22名多い189名でした。建学の精神である「アジアの時代にアジアを学ぶ」を踏まえた留学プログラムの再開や、AI・データサイエンスを商学と結び付ける講義の新規開講等、本学の取り組みが評価されたものと考えられます。こうした傾向を受け、2025年度入試は総合型選抜の募集定員を10名から20名と2倍に拡大します。今後も、グローバルな社会・経済環境と地域社会の変化とを的確に捉え、受験生および地域社会にとって魅力ある大学づくりを進めていきたいと考えます。

(入試・広報センター長 佐藤 千歳)



令和6年度新入生オリエンテーション(写真上左：学内ネットワーク利用オリエンテーション、上右：「入学おめでとう」看板の前の新入生、下：山田商学部長挨拶)

新年次ガイダンスと 新LMS(manaba)の 導入、優秀学生表彰

2024(令和6)年度前期の在学生ガイダンス(2・3・4年生)は、昨年同様にオンラインで、3月15日から成績・講義等の説明を実施しました。3月25・26・27日には新しいLMS(manaba)学習支援システムの説明会も実施しました。manabaでは大学から学生への連絡、授業教材の掲示、responを使ったICT授業、レポート提出等がPCやスマホ等で簡単にできるようになりました。

新入生オリエンテーションは4月4日・5日午前中に2号館多目的ホールにて対面で実施され、各センターから講義や学生生活等の説明が行われました。4月5日午後にはPC教室で学内ネットワーク利用オリエンテーションも実施され、新入生は各種システムの設定を行い、4月6日午前前期の講義科目を決めました。

例年、本学では新2・3年次の学生を対象に、北海商科大学教育振興資金による学業成績優秀学生・課外活動優秀学生表彰を実施しています。2023(令和5)年度においても、学業成績優秀学生として通算GPA(Grade Point Average)に基づく成績評価で上位3位までの学生3名を選出し、履修登録日である3月25・26日の両日に学長(25日は商学研究科長が代理)より表彰するとともに、奨励金を授与しました。このたび、見事に授賞された皆さんには、授賞を契機として今後もモチベーションを一段と高め、学業成績の一層の向上や課外活動で多くの成果を上げられるよう期待しています。

(教務センター長 中西 良之)



学業成績優秀学生表彰式(写真上：新2年生、左から工藤愛華さん、木野萌香さん、龍瀧佑哉さん、佐藤研究科長。下：新3年生、左から安井陸隼さん、鈴木希歩さん、堂徳学長、上田 美咲さん)

令和6年度 サークル一覧

体育	軟式野球部
体育	バドミントンサークル
体育	フットサルサークル
体育	陸上競技部
体育	バスケットボールサークル
文化	環境ボランティアサークル
文化	韓国語サークル
文化	軽音サークル
文化	教育研究会
文化	中国語サークル(歓々喜々)
非公認	空手同好会
非公認	ゴルフ同好会
非公認	スカッシュ同好会
非公認	ボードゲーム同好会
非公認	よさこい同好会
運営団体	サークル連合執行部
運営団体	体育祭・大学祭実行委員会

就職支援について

2023年度(2024年3月)卒業生の多くは、大学入学前にコロナ禍に直面し、多大な影響を受けながらの学生生活を余儀なくされてきました。講義はリモートによる遠隔授業が主流で、課外活動にも十分に打ち込めず、海外留学も断念せざるをえない世代でした。その結果、武器となるいわゆる「ガクチカ」を語れない学生も多かったに違いありません。しかし、そのような条件下で、コロナネイティブというたいへん不名誉な評され方をされた世代にもかかわらず学生らはたいへん頑張りました。就職希望者に対する就職決定率は、商学科96.3%、観光産業学科94.3%、商学部全体で95.8%でした。9割を超える結果が達成されました。就職先としては、従来からの、卸売・小売業、情報通信業、運輸業、金融・保険業などに加え、空港サービス業や宿泊業など、コロナ禍の3年間で実績が極端に少なかった業界への就職が復活した点が2023年度の特徴といえましょう。

次に、今年度(2024年度)の就職活動の動向については以下です。2025年春卒業予定者の就職活動が本格的に始動して数か月が経過しました。昨年同様、現在のところ企業の採用意欲も高く、学生にとっては「売り手市場」の様相を呈しています。とある就職情報会社の調査(2024年4月発表)では、「今年度(2024年度)4年生の内々定率は約5割、前年比で大幅増のハイペース」などとの報道もみられます。例年にも増して「早期化」の傾向が加速している感が否めません。「早期化」は一方で「長期化」をも意味します。長期戦ゆえに、特に、業界研究・企業研究および自己分析・面接対策などに不安がある4年生がいれば、焦らずに、いまからでも間に合いますので、キャリア支援センターへ相談にきてください。そして、現3年生は4年生の後ろ姿をみて是非奮起してください。キャリア支援センターでは、学年に関係なく皆さんの進路決定にあたり全力でサポートいたします。

(キャリア支援センター長 伊藤 寛幸)

北海道起業家甲子園2023に参加

堤先生のアントレプレナーシップ論の受講生が北海道起業家甲子園に参加しました。本学からの2つの受賞チーム、パナソニックコネクト(株)・現場ソリューションカンパニー東日本社特別賞を受賞したチーム「3DAIペットの会」と、BIJIN & Co.特別賞を受賞したチーム「TOYOHIRA SOINS」を代表して近藤卓翔さんにお話を聞きました。

近藤さんのチームTOYOHIRA SOINSのビジネス・プランは、在宅介護を受けている方と介護者をマッチングしたり、介護に関する知識を共有したりするためのアプリを開発するというものです。このプランは、「孤独に介護をしている人たちを助けたい」との思いから始まった」と近藤さんは振り返ります。

2か月ほどの準備期間で、堤先生や起業家の方々から助言をもらいながら、チーム全員で協力してプランを作りあげました。準備期間が中間試験の時期と重なって大変ではあったけれど、準備をしているうちにどんどん楽しくなってきたそうです。近藤さんは、「身をもって起業家精神を学ぶことができ、審査員の起業家の皆さんと実際に話したことは非常に良い経験となった」と嬉しそうに教えてくださいました。起業家甲子園の経験は、就活でも生きているそうです。(坂口 可奈)



指導教授の堤先生と北海道起業家甲子園2023の表彰状を手にTOYOHIRA SOINS、3DAIペットの皆さん

特集

就職支援座談会 —2025年卒業に向け、就活を経験して—

夏にはインターンシップが始まり、3年生の就職活動が本格化してきます。今回は、昨年就活を経験し志望する企業の内定を勝ち取った4年生4名に、就活をどう進めたのか、キャリア支援センターをどう活用したのか話してもらいました。きっとこれからの就活の参考になるはずです。

●司会
澤内 大輔 先生
商学科准教授



— 就活はいつからどのように進めたのか、また、辛かったことや大変だったこと、頑張ったことについて教えてください。

猪爪 僕は税理士を目指しているので、就活は会計事務所一択。3年の8月からインターンシップ（以下、インターン）に参加し始め、札幌を中心に旭川も含めて10社以上に行きました。本社が東京や大阪にある場合はウェブで参加しました。インターンでは、その会社の社員になりきるようにしていて、「このへんでランチに行くならどこかな」とか、イメージするのが楽しかった。ただ少し困ったのは、大学に会計事務所の情報があまり多くなく、自分でもリサーチしなければならなかったことです。

小岩 僕は業界や業種を絞らず、説明会や面接の雰囲気や、将来どんな生活がしたいか、どういうところで働きたいかを軸に就活しました。始めたのは3年生の6月くらいから。大変だったのは、道外企業が志望で東京や大阪まで面接を受けに行かなくてはならず、アルバイト代がほとんど飛行機代に消えてしまった…。でも、業界や業種を絞っていなかったからこそ、いろいろな会社の特色を知れたと感じています。



●小岩 孝臣 くん
商学科4年
帯広市出身
帯広南商業高校卒
志望職種：営業職

高木 私も動き始めたのは6月くらいからです。最終的にIT業界に絞りましたが、最初はいろいろな業界を見ていました。SE（システムエンジニア）を目指そうと決めたのは、インターンに行ってから。街で偶然見かけたIT企業のオフィスがとてもきれいだった

たので興味を持ち、会社名を調べてインターンに参加したらとても楽しかったんです。でも、条件を絞ったら行きたいと思う会社が2社しかなくて、「第一志望に絶対受からないと…」と思うとメンタルが辛かったです。

吉富 私は、5月末に行われた大学での説明会を皮切りに、6月から合同会社説明会に参加しました。業界は絞っていませんでしたが、説明会でいいなと思うのはメーカーが多かったので、後半はメーカーを中心にしました。職種は、会計学を勉強していたので経理が志望でしたが、インターンに行って「営業もいいな」と思うようになり、経理と営業に広げて就活しました。内定したのは、友達の付き合いで行った合同説明会で、たまたま財務経理に特化したインターンがあると知った企業です。きっかけはどこにあるかわからないので、広く情報収集することが大事だと感じました。大変だったのはスケジュール管理。授業、アルバイト、自動車学校、就活と詰め込み過ぎてペース配分を間違えちゃった（笑）。でも辛くはなくて、自己分析や企業研究も自分に合うやり方を見つけたらスムーズにできたと思います。



●吉富 愛香 さん
商学科4年
恵庭市出身
札幌東商業高校卒
志望業種：家電メーカー

— 就活を通じて変わったことは？1年前の自分や、後輩たちに伝えたいことはなんですか？

小岩 1年前は就活って怖いものだと思ってたけれど、やればなんとかなる！（笑）。後輩に伝えたいのは「これじゃなきゃダメ」にあまり囚われないことかな。僕自身、知らない企業を見つけられたのが良かった。なかなか志望を絞れない人には就活アプリがおすすめです。僕も利用してインターンや面接に行きました。

高木 確かに、就活なんか嫌だと思っていたのにやってみたら楽しかった。後輩には、

SPI*だけでなくそれ以外のテスト形式も調べて対策しておいたほうがいいと伝えたいです。玉手箱*や、私の第一志望ではTG-WEB*で、AIの監視つきでした。



●高木 美来 さん
商学科4年
札幌市出身
北海道科学大学高校卒
志望業種：IT業界

吉富 SNSの情報がすべてだと思わないこと。私も不安になって就活のアカウントを見たり、オープンチャットで情報を集めたりしていましたが、内定が出るまでの期間など地域や企業によって全然違うし、参考程度にしたほうがいいです。そして私の場合、怒涛のスケジュールの中での就活で自分の限界がわかって、ストレスの発散の仕方など切り替えがうまくなったかもしれません。

猪爪 就活で将来設計について考える機会が増えました。インターンは将来が想像できて楽しかったです。そして終わったら情報や感想をメモするようにしていました。行くところが多いとゴチャゴチャになるので、エクセルなどでまとめておくと、会社のどこが自分の軸に沿っているのか一目でわかるし、モチベーションになります。面接で聞かれたことも全部メモするようにしていました。

— 本学では、キャリア支援として3年生の5月に全員への個別面接をはじめ、書類の添削や面接練習、キャリアセミナーなどを行っています。みなさんはどのように活用しましたか？良かった点は？

高木 エントリーシート（以下、ES）添削や面接練習など、いろいろな人に頼める雰囲気がありがたかった。LINEでESを送ったら添削してくれるし、面接の練習にオンラインで対応してくれるのは、時間的にも効率が良かったです。他大学の友達の話や聞くと、キ

ャリア支援のセンターを予約しないとES添削してもらえず、その予約自体なかなか取れないと言っていたので、それに比べると利用するハードルが低いと思う。北海学園大学の就活データと連携しているのも強みに感じます。

吉富 3年生は授業とアルバイトで忙しいので、対面・メール・LINEと相談のツールが揃っていて、わざわざ学校に行くほどではないとき、ちょっとした時間で就活できるのが良かったです。あと、昼休みに開催されたキャリアセミナーにすべて参加しました。3年生でグループディスカッションの練習ができるのもありがたかった。

猪爪 僕もES添削と面接練習でお世話になりました。面接練習は、対応してくれる先生の個性や経験によって質問が違うので、良い練習になりました。

小岩 みんなが言うように、キャリア支援が充実していると思います。他校より早い段階で企業説明会が開催されたり、大学主催のインターンに参加できたりするところにもアドバンテージを感じました。



●猪爪 晴人 くん
商学科4年
根室市出身
根室高校卒
志望職種：税理士

— では、今後のために改善してほしい点がありますか？

吉富 私は入学時から就職を意識していて、これ以上ないほどサポートしていただいていたのですが、まわりは「まだ大丈夫」と楽観的な人が多かった印象です。就活は今後さらに早期化と思うので、学生に早めの活動を促す機会があればいいかもしれません。

高木 人によって意識が違うので、個別面談は5月だけでなく、4年生になる直前の就活が本格化する前にもう一回あるといいのでは。

ようこそ北海商科大学へ！

交換留学生歓迎会を開催

令和6年度交換留学生歓迎会を4月20日(土)11:30より地下1階自由学習コーナーにて国際交流センター主催で開催いたしました。数年間に渡り開催できずにおりました、この交流歓迎会を再開できたことは喜びに堪えません。国境を越えた友人の輪をさらに広げる切っ掛けとなったことでしょう。冒頭にて国際交流センター委員の教員の方々（韓国語担当の李鳳先生、中国語担当の蘇林先生、韓国語担当の水野先生、英語担当のニールセン先生、中国語担当の劉玗先生）をご紹介いたしました。直後に劉玗先生による乾杯を合図に食事が始まり、しばしの歓談を楽しみました。途中、交換教授で来学され、日本文学がご専門でいらっしゃる大田大学校、ミン・ビョンフン(閔 丙勲)先生にご挨拶をいただき、その後、留学生各々から自己紹介をしてもらいました。大田大学校からは2名、煙台大学からは4名、また大学院在学中の留学生2名に自らの留学への思いを語ってもらいました。今後は中国語の受講者がさらに増え協定校たる山東大学・威海分校や煙台大学からの交換教授をお迎えできるようになってほしいものです。1時間ほどの歓談ののち、締め乾杯を水野先生をお願いいたしました。その後は記念の集合写真撮影を終え、ゆるゆると散会いたしました。（国際交流センター長 原子 智樹）



写真上・右上：歓迎会の様子
右下：交換留学生・院生と交換教員の皆さん



煙台大学ほか中国から

左から、郭奕航 (GUO YIHANG) さん、李維良 (LI WEILIANG) さん、王安洋 (WANG ANYANG) さん。楊清遠 (YANG QINGYUAN) さん。大学院生の孫敬朋 (SUN JINGPENG) さん、其力干 (QI LIGAN) さん。交流研究員の吳雪燕 (WU XUEYAN) 先生。



韓国 大田大学校から

左から、李徑勳 (LEE KYUNGHOON) さん、朴ハニ (PARK HANUI) さん。交換教員の閔丙勲 (MIN BYUNGHOON) 先生。



それから、面接練習に対応してくれる先生や職員の人をもう少し増やしてほしい。猪爪さんが言っていたように、先生によって質問の仕方などが違うので幅も広がると思います。
猪爪 僕の場合は会計事務所に絞っていたこともあり、知りたい情報を大学の就職情報ではあまり得られませんでした。インターンは自分で探さなければならなかった。自分のように会計事務所を志望する人がこれからもいると思うので、資料をもっと置いてほしい。扱う業種も増やしてほしいです。

*SPI・玉手箱・TG-WEB … 採用試験の一種で、適性検査としてこの3つが代表的。多くがWEBテスト方式で行われ、TG-WEBには不正防止のためのAI監視型もある



写真上左：昨年10月10、17日に開催された就労内定4年生の報告会、上右・下は2月、3月に北海学園大学と合同で行われた業界研究会と企業説明会の様子

国際交流について



北海商科大学は中国(山東大学【威海】、煙台大学)、韓国(大田大学校)、そしてカナダ(レスブリッジ大学)の各協定校と交流事業(交換教授・学生の派遣及び受入)を実施しています。前年度は新型コロナウイルス症後の諸事情を抱えながらも、韓国へは例年通り10数名を、また煙台大学へ久方ぶりに4名の派遣を実現できました。本学において韓国語人気は相変わらずの高止まり傾向を示しており、その需要に応えるためにも、今後は更なる留学先を模索する必要があるかもしれません。他方、今年度新入生の中国語への関心は急回復の兆しがみられると云ってもよいでしょう。中国語授業の受講者も数十名を優に超え、初年次語学留学志望者もその半数以上を占めてきております。韓国留学のみならず、中国留学も回復することで、本学の「アジアの時代にアジアを学ぶ」の本領が発揮されることでしょう。

また今年度は、北海学園大学と合同でレスブリッジ大学への夏季短期学生派遣事業の募集を開始済みであり、すでに在学生から何件もの問い合わせがあります。こちらも8月に向けて着々と準備が進捗しております。（国際交流センター長 原子 智樹）

留学だより

韓国・大田大学校留学

●商学科4年 筒井 祥央

僕は韓国の大田大学校に2月の末から一年間の留学中です。大学では「名作鑑賞」や「古文」などの講義を現地の学生と同様に受けています。講義では専門用語が多く出てきますが講義のPPTなどを活用し、韓国語の実力向上ができていますと感じています。韓国語での会話の面では、現地学生との会話や講義でのパワーポイント発表がほぼ毎週のようにあるため回数を重ねていくうちに慣れていき、もっと話せるようになるため日々努力しています。大学生活では学科の生徒会に加入し、行事の運営、サポートや日本人交換留学生の取りまとめ等をおこなっており、語学の学習とは別に様々な経験をしています。サークルも様々なサークルがあり、僕は卓球サークルとJPTの勉強サークルに加入しほぼ毎週活動を行っています。またテスト期間は、学校の図書館は24時間やっており、ほとんどの学生が毎日遅くまでカフェや図書館で勉強をしています。休日は現地学生と、ボウリングやビリヤード、ドライブをしたりミュージックフェスに行ったりととても充実した生活を送っています。まだ、留学に来て間もないですが、留学では常に目標を持ち、実りのあるものにしていけるようにしたいです。



学生会メンバーの誕生日にみんなで集まった写真

中国・煙台大学留学

●商学科2024年度卒 中村 早那

私は昨年9月から中国の煙台大学に留学しています。大学では一般的に語学の授業を受けています。その他に、選択授業で書道という日本の習字のような授業もあります。授業ではわからない単語や文法が多くありますが予習復習をし、少しずつ語彙を増やしています。大学外の生活では、中国人や韓国人とご飯を食べたり、カフェで勉強をしたり寮にすることがほとんどないほど充実した生活を送っています。その中でも一番印象に残っているのは、まだ留学に来たばかりの頃、中国語で会話が全然できないにも関わらず、中国人と韓国人と一緒にバスケットをしたことです。このバスケットをきっかけに多くの人達と交流ができ、授業では習うことのできない言葉を多く教えてもらいました。このほかにも、留学でしか味わえない経験をしています。元々消極的な自分でしたが、留学に来たことで現地の人や友人たちと多くの時間を過ごし会話を重ねていくうちに、中国語や他の国の言語の発音や文法を間違えることを恐れずに会話することが少しずつできています。



留学生と中国人学生との交流



研究のいま ●相浦 宣徳 教授



最近、皆さんの生活に「ある変化」を感じませんか？

Amazonや楽天市場などの通信販売サイトで「注文をする」ボタンをクリックしてから配達されるまでの日数がのびたり、いままで何気なく買っていたお菓子が店頭にはばなくなったり…。
そうです。いま、モノを運ぶことが難しくなっているのです。

広い意味ではモノを届ける活動のことを物流(物の流れ)といいます。通信販売で皆さんがクリックした後、商品は本州にあるメーカーの倉庫や物流拠点などから、貨物列車、フェリー、航空機で北海道内の物流拠点に輸送されます。道内の物流拠点からはトラックなどで皆さんの自宅に届けられますが、運んでくださる運転手さんへの負担が大きくなっています。かつて、おやつの定番だった(株)明治の「カール」は北海道の店舗で買うことができません。物流コスト(モノを届けるのにかかる費用)の高騰などにより、販売地域が西日本限定になったからです。

大きな島国・北海道！

私達が生活している北海道は日本全体の面積の22.1%を占める「広大な大地」です。また、本州との間には、自動車道路が整備されていない「島国」でもあります。そのため、全国的に起きている「トラック運転手さんの担い手不足や長時間労働に係る問題」、「貨物鉄道輸送に係る問題」、「海上輸送に係る問題」がより大きく影響します。例えば、通信販売の商品や「カール」のような加工食料品や衣類や書籍・雑誌などの日用品は、全国各地から札幌近郊に届けられ、その後、各地域にトラックで輸送されます。道北の北部、オホーツク地域、道南地域へは長距離輸送を伴うため、輸送力の低下が懸念されます。また、本州との間に自動車道路がないことから、輸送手段が貨物鉄道、船舶、航空に限定され、各々の課題への対応を誤った場合には、大幅な輸送力の低下を招いてしまいます。

物流を考えることは北海道の将来を考えること

最近、ニュースや新聞で、物流に関する報道をよく目にします。前述のトラック輸送力の低下、北海道新幹線並行在来線を通過する貨物列車の維持の仕方、フェリーなどの燃料の高騰などです。

輸送力の低下によって、先ほどの日用品が道内のスーパーなどに供給できない、北海道の農産物が全国各地に出荷できないことが、そんな事が起こりえます。このような事態を回避するには、消費者である皆さん、わが国の食料基地である北海道で暮らす皆さんが、自らの問題として考えて行動することが重要です。具体的には、クリックする回数を減らす、不用意な配達時間指定をしない、可能な限り付加価値を高めて道外に出荷するなどです(政府ではこれらを「荷主・消費者の行動変容、商慣習の見直し」と定義しています)。

物流のことを考えることは、どのような北海道を次の世代(皆さんの子供や孫)にバトンタッチするかを考えることです。自らの問題として考え、行動してください。

詳しい内容は

「道経連 相浦」と検索してください。詳しい研究レポート①がご覧いただけます。②は本学の大学院で博士(商学)を取得した平出渉(株式会社ドーコン)さんとの共同研究の成果で、2023年度日本物流学会賞を受賞しました。ぜひご覧下さい。

- ①「2021物流プロジェクトチーム報告書～北海道および全国各地の食産業を支える物流の課題整理と対策の検討～」,北海道経済連合会,2022
②【受賞論文】平出渉、相浦宣徳：北海道新幹線並行在来線と青函共用走行区間における貨物鉄道輸送に関する一考察－議論の整理と仮説的抽出法アプローチによる影響分析,日本物流学会誌 第30号, 2022



18

19

20

札幌マチヅクリ大学 2023



YouTube公式サイトへ

札幌マチヅクリ大学とは、自宅と大学、せいぜいバイト先しか知らない学生らが、街を愛しステキな場所を生み出そうと躍動する大人らと出会うことで視野を広げ、人生を少しでも豊かにしてもらおう！と、5大学7教員と地域の有志で立ち上げた街の学びの場です。

実際の札幌の街は、グローバル化や合理化・効率化の波を受けた都市開発で人の営みの気配は蹂躪されています。三浦展氏は、そのような変化を街の「ファスト風土化」と表現し警鐘を鳴らしています。せめて学生には、多様な人が混在する本来の街の楽しさや大切さを知ってほしいと考えています。

そこで札幌マチヅクリ大学では、創成イースト地区で活動する方々にキョージュとしてゼミを主宰してもらいました。コーヒー店店主、道産ワイン店店主、札幌観光大使、ライター、住職、通訳案内士と多様な職業の皆さんです。他方、大学教員は、運営スタッフとして黒子役です。2023年度のテーマは、地域を「知る」ことです。キョージュを中心に地域の人を知り、街のへの思いや志などに触れ、最終的には創成イースト地区をPRするショート動画



写真は札幌マチヅクリ大学で発表を行うゼミ生の皆さん



の制作を目指しました。参加学生は、3大学の学生29名で、5つのゼミに分かれ活動しました。その過程では、携帯電話のGPS情報をもとにした人流データを活用した現状分析の専門家に入ってもらい、エビデンスに基づき論理的に思考を組み立てることに挑みました。

成果物は、YouTube公式サイトで公開されていますのでぜひご覧下さい(左上QRコードから)。5グループの特徴が出た映像作品で、どれも楽しみながら見てもらえると思います。また、学生独自のプロジェクト構想も生まれており、将来が楽しみです。2024年度はさらに多くの大学や地元企業にも参加して頂き開催する予定です。興味がある、ぜひ参加したいという学生は、池ノ上まで相談してくださいね。(池ノ上 真一)

O B・OG NOW!

●学校法人北海学園 北海学園札幌高等学校

増井 千晶さん

マスイ チアキ

〔2017(平成29)年 本学商学部観光産業学科卒業〕

子どもの頃から国内外を問わず旅行に興味があり、その関心から旅行関連の仕事に就きたいと思い、観光産業学科のある北海商科大学に入学しました。授業では地理や名産品だけでなく、旅行運賃の計算など、旅行業におけるさまざまな側面を学びました。

大学生活での1番の思い出は、カナダのレスブリッジ大学への短期留学です。海外生活の経験がある父の影響で、幼い頃から海外に対する興味はありましたが、それまで海外旅行の経験はありませんでした。3週間の留学生活は非常に新鮮で刺激的でした。異文化の中で暮らすことは、言葉や習慣の違いに戸惑いながらも自分自身の成長や新たな視野を広げる機会となりました。特に、現地の学生やホストファミリーとの交流を通じて、国際的な友人やネットワークを築くことができたことは貴重な

経験でした。

帰国後、英会話教室に通ったり、日本人の友人と海外旅行に出かけたり、レスブリッジ大学から留学生が来た時には協力学生として活動し、英語のコミュニケーション能力や異文化理解をさらに深めました。これらの経験は、人とのコミュニケーション能力や柔軟性など、職場や社会で必要なさまざまなスキルにつながっています。

卒業後は学校法人北海学園の職員として、北海学園札幌高等学校に勤務しています。高校の事務職員と聞くと、業務内容を理解してもらいにくいかもしれませんが、主に教職員の給与や福利厚生、生徒の奨学金などを担当し、学校のスタッフや生徒をサポートしています。この仕事を通じて、教育の現場での役割や責任、教育者と生徒との関係性など、新たな視点を得ることができ、自身の成長にもつながっています。



写真上：レスブリッジ大学短期留学時に下：レスブリッジ大学からの留学生と

韓国語・中国語スピーチコンテスト報告

第25回北海道韓国語弁論大会で入賞

11月4日に第25回北海道韓国語弁論大会（主催：札幌韓国教育院）が行われました。本大会は、北海道地域社会の韓国に対する理解、日韓親善および国際交流に寄与し、在日韓国人と北海道民の韓国文化及び韓国語学習の雰囲気を高揚することを目的として毎年実施されています。

本学の新屋敷詩乃さん（現3年生）が「私にとってKpopとは？」というテーマで銅賞を、同じく桑原涼華さん（現4年生）が「はじめての韓国と韓国人の温もり」というテーマで銅賞を受賞しました。

本学韓国語教員である李 鳳 准教授の推薦をきっかけに出場を決心したお二人は、同准教授のサポートのもと何度も練習を重ねながら、すべてを暗記し、韓国語への熱い想いをスピーチにして伝えました。昨年の大賞と金賞に引き続いての受賞で喜ばしいことです。おめでとうございます。



「漢語橋」・中国語スピーチコンテスト予選大会で入賞

5月26日、2024年第5回全日本大学生中国語スピーチコンテスト・第23回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北日本ブロック（北海道・東北地方・長野・信越地方）大会が開催されました。今回の予選大会は、本学の観光産業学科4年の渡邊そあらさん、および商学部1年の久保詩音さんの二人が出場しました。

二人は、「天下一家」というテーマで、素晴らしいスピーチをしました。さらに、渡邊そあらさんは、中国百科知識クイズに答え、書道の腕前を披露しました。見事に「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト予選の優秀賞を獲得しました。彼女が今まで中国語を学ぶ努力をしてきたことが認められました。

また、1年生の久保詩音さんは、今年本学に入った新入生として、中国語を一生懸命勉強、見事に全日本大学生中国語スピーチコンテスト予選の二等賞を得ました。彼女は北海道代表として、6月22日に東京で開催される決勝戦に出場します。

今回のスピーチコンテストでは、本学が優れた成績を実現しました。二人は、今回の大会を通して、中国語の勉強をよりいっそう頑張っていくと述べました。また、今回の大会に応援してくださった中国人留学生、および先生方に感謝します。本当にありがとうございます。（劉 玗）



高大連携 北海学園札幌高校との連携 授業が始まりました

北海学園札幌高校と本学との連携を一層強化する目的で、同高校の新1年生の「総合的な探究の時間」の一部を本学の教員が担当する連携授業が始まりました。通常の出前講義は、1回限りの単発の講義となることが多いのですが、連携授業では半年の間、本学教員が高校生や高校の先生と向き合い授業を進めていきます。本学からは8名の教員が参加し、教員ごとに設定したテーマに基づき、10月の発表会に向けて授業を進めます。

北海学園札幌高校の体育館で行われた4月26日の初回の連携授業には、池ノ上教授、澤内准教授、千葉准教授が出席し、連携授業のねらいや本学教員が設定した8つのテーマについて説明しました。テーマは、まちづくり、eスポーツ、地域交通、IT（情報技術）、国際交流、自動運転、株式投資、心理学、生物との共生など多岐にわたります。400名を超える高校生の皆さんが、集中して説明を聞いていたことが印象に残っています。

5月からはテーマごとに分かれた授業が始まります。本学教員もまじめに、楽しみながら授業を進めていきます。高校生の皆さんには、様々な教科で学んだ知識を生かし、唯一の答えがない課題にチャレンジすることを通じ、課題発見能力や問題解決能力を高めてもらいたいと考えています。（澤内 大輔）



北海学園札幌高校での連携授業

データサイエンス科目 新たに開講

本学では2024年度よりデータサイエンス・AI論が開講されました。文系でデータサイエンスやAIの知識が必要なのかと思われるかもしれませんが、データサイエンスやAIについての教養はデジタル時代の「読み・書き・そろばん」と言われるものです。これらはビジネスの多岐に渡る分野ですすでに活用され、ビジネスについての学びを深めるためにも必要な基礎知識となっています。

本学では、これまで展開してきた商学や観光産業の科目の学びを深め、学生の将来の選択肢を広げるために、データサイエンス・AI論を1年次必修科目として位置付けました。そのため、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムがとりまとめたモデルカリキュラムに沿った内容となっており、リテラシーレベルの基礎教養が身に付けられるようになっています。数学としての理解ではなく、データサイエンスやAIといった新しい技術の根幹にある考え方を学び、社会やビジネスをどのように変えていくのかを考える科目です。そして、次年度の文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」の認定を目指しています。（玉井 航太）



三田村教授による授業

ゼミ訪問◆松原 英二 准教授 コマース研究ゼミナール◆

商学科の3年次前期、4年次前期に開講されている「コマース研究ゼミナールⅡ・Ⅳ」。松原ゼミでは、ゼミ履修以前の専門科目で学んだ金融や証券など、資本市場の研究をもとに自らテーマを設定、それについての資料や情報の収集と分析を通して思考、導き出された結論を発表（プレゼンテーション）する能力を身につけることを目標としています。

ゼミ室の黒板全面いっぱいに、松原先生の文章が書かれています。ゼミの始まる1時間前には「本日のメニュー」と題した進行表を書き込むことから始まります。「そこには口上」と称し、折々の雑感をメッセージとして記述しています。やがてゼミメンバーが集合し、教室にも賑やかさが広がります。オープニングでは、この1週間に内外で起きた政治や経済の動向などを語り、私の板書コメントを基に意見交換が行われるのですが、やはりこのゼミの特長はメンバーによるプレゼンにあります」と、松原先生。

受講するゼミ生は、それまでに専門科目で松原先生の金融システム論などを履修しています。ゼミではそれらの学んだことをアウトプットすることに主眼が置かれています。この進め方には、松原先生自身の大学時代の暮らし、学びの考え方などの経験が生きているそうです。「振り返れば、これまで金融や証券分野に関しての数多くのテーマを扱ってきましたが、近頃はマンネリ感が拭えず、テーマの対象を拡大しています。元々このゼミには個性派といわれる音楽大好き人間が集まるらしく、ついにはプロのミュージシャンまで輩出しました。更にその延長線上として演劇やアイドル、それにサバカルなどをプレゼンするメンバーも多く出現しました。例えば「サ

ゼミ訪問時は、プレゼンテーションのための準備段階でしたが、ゼミ生の大場照平さん（商学科3年）は「2年次に松原先生の専門科目を受講していましたが、専門的な内容にとどまらず、幅広い経験から多様な話に広がり、興味も深まりました」と、ゼミ選択の経緯を話してくれました。研究成果や知識を教授するという進め方にとどまらず、自らが感じていることを語りかけるような双方向的なゼミの雰囲気は、松原先生の人柄そのもののよう

に感じられました。

写真：円内の写真は松原先生の大学生時代（ユースホステルの会員証より）
中段はプレゼン発表の3名（左から本間葵斗さん、我妻諒哉さん、草野遥紀さん）



新任教員・職員紹介



■新任教員
三田村 保
ミタムラ タモツ
観光産業学科教授

専門は観光情報学、ゲーム情報学、知能情報学です。デジタルゲームと人工知能(AI)の応用・利活用について研究しています。

担当科目は観光情報学Ⅰ・Ⅱ、観光調査論、観光研究ゼミナールなどの専門科目に加えて、現代社会と情報ネットワークA・B、今年度から開講されたデータサイエンス・AI論を担当しています。授業では、学生は主に情報技術(IT)やAIに関する知識を学び、チーム制作によりイラスト、動画、ゲームやアプリ、ビジネスプランなど、IT、インターネット、人工知能を利活用したデジタルコンテンツの企画・プロトタイプを制作します。このような活動を通して、DX(デジタルトランスフォーメーション)時代に適応する人材に成長してもらいたいと考えています。また、学生の新しく斬新なアイデアは私自身にとっても良い刺激になっています。

今後は北海道の観光産業や地域活性化に貢献する教育・研究を進めていきたいと考えています。



■新任教員
山口 晴敬
ヤマグチ セイケイ
観光産業学科教授

教職課程全般を担当する山口晴敬と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私の学生時代は、いわゆる“バブル”といわれる時代でした。御多分に漏れず、私も大学生活を大いに楽しみ、バイトと合同コンパとパーティーに、日々明け暮れていました。見るに覚えぬ友人が、「せめて、大学に行ったという証(あかし)を示せ!」と私を叱責し、その友人の勧めで教員免許を取ることを2年次に決めました。しかし、まったく教職に興味がなかったため、教職課程履修においては友人たちが全てお膳立てをしてくれました。当時の教職の先生方も私のことは誰も知らなかったと思います。そして時がたち、そんな私ですが、教職課程を教える立場となりました。しかしこの事実は、私自身今でも信じられずにいます。しかし、「教職をとっておいでよかった」と、しっかりとそう思います。

人生はどこでどうなるかわかりません。この頂いたご縁を大切に、頑張っていこうと思っています。



■新任教員
益子 洋人
マシコ ヒロヒト
商学科准教授

今年度着任いたしました益子洋人と申します。教職課程の8科目(教師論、教育心理学、生徒・進路指導論、特別活動論、教育課程論、教育方法論、教育相談論、職業訓練Ⅱ)と、社会文化ゼミナール(キャリア領域)を担当いたします。本学への入職以前は、17年間に渡り、小中高등학교のスクールカウンセラーも勤めて参りました。専門は、カウンセリング心理学、紛争解決学、教師教育学です。最初の研究テーマは、「他者に合わせすぎて疲れてしまう人をサポートする方法」でしたが、その過程で、人々が安心してケンカできるとよいらしいことが分かってきたので、現在は「上手なケンカ」のスキルを磨けるようになる教材開発を目指しています。

得意なことは、人前で話すことと、人の話を聴くこと。苦手なことは、部屋の片づけと、細かい注意力の必要な情報を扱うこと(たとえば、原稿の校正など)。実益を兼ねた趣味は、学校巡りです。どうぞよろしくお願いいたします。

交換教員紹介



■交換教員
関 丙勲
ミン ビョンフン
大田大学校 教授

北海道は韓国人にとっても憧れの地です。留学生だった頃の私にも、なぜか北の国への漠然とした憧れがありました。しかし留学時にはついに白樺の森を目の当たりにすることはありませんでした。それが、大田大学の教員になったことで北海商科大学を訪問する機会が与えられ、このように交換教員として来ることができました。

昨年韓国では、「スラムダンク」と「すずめの戸締り」が夫々487万人と598万人を超える観客を動員し、話題を呼びました。何より観客層が50代、60代にまで及んでいるということは注目に値します。また、日本古典文学専攻の私にとって、古典材料をふんだんに取り入れている宮崎駿監督のアニメーション映画はこの上なく有難いものです。

北海商科大学では韓国語を教えることになりました。言葉は遙か昔からの人々の息吹と歴史を宿しています。両国の人が共感できる古からの交わりの痕跡を探ってみたいと思います。



■新任職員
松山 周平
マツヤマ シュウヘイ
学生支援センター

本年4月から学生支援センターで奨学金関係や課外活動など学生支援全般を担当することとなりました。3月までは北海学園大学経済学部で庶務・会計担当としておにも教員の研究・教育活動のサポートを、その前には北海学園大学キャリア支援センターで学生の就職活動のサポートをおこなってききました。

これらの経験を活かし、皆さんがいきいきと学生生活が送れるような環境づくりの一助となれればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

26 27 28 29

Instagram NOW!

2024年3月10日、北海商科大学【公式】Instagramを開設しました。ホームページや大学案内パンフレットでは伝えきれない大学の特色や学生生活、学生へのインタビュー動画など充実の内容です。

受験生だけではなく、保護者の方や高校の先生たち、北海商科大学の学生にも楽しんでいただけるように投稿していきます。QRコードをスキャンして、フォローになっていただけたら嬉しいです。Instagramの取材に協力していただける学生も大募集中です!!



@カウンセリングルーム Newsletter 11



「当たり前幸せ」

カウンセリングルーム **小林 美穂子**
(臨床心理士・公認心理師)



皆さん、こんにちは。今回は、能登半島地震緊急支援で入ったときに感じたことをシェアしたいと思います。さて、いきなり質問ですが、「皆さんは、朝起きて出かけるまで、何をしますか?」。例えば、トイレに行く、歯を磨く、顔を洗う、シャワーを浴びるなど、人それぞれのルーティンがあると思います。もちろん、これ以外の行動もあると思いますが、被災地活動では、私たちが何気なく送っている生活と「水」がこんなにも密着していることを痛感させられました。

今回の地震による生活への影響の一つとして、「断水」が挙げられます。つまり、水が使えないと冒頭のことがどれもしなくなるのです。私自身も、「行きたいときにトイレに行けない恐怖」から、水分摂取をかなり控えました。何が言いたいかというと、蛇口をひねれば水が出てくること、好きな時に好きなだけ水分を摂れること、行きたいときに何も考えずにトイレに行けることがいかに幸せなことなのか身にしました。普段、当たり前だと思っていることは、失ってみないと見過ごしがちだということにも気づかされました。

ちなみに、災害対策に必要な水の量は、「1人あたり1日3リットル、これを最低3日分」【農林水産省ホームページ】だそうです。いざという時のために備えておきたいですね。最後に、カウンセリングルームの予約方法を記しておきます。どんなささいな悩みでも、一人で抱え込まないで気軽に連絡してくださいね。

【カウンセリングルームの予約方法】 利用時間：【火曜日】 13：00～17：00
まずは、メールで予約をしてください。e-mail：soudan@hokkai.ac.jp
予約の際は、①氏名 ②学籍番号 ③希望日時をお知らせください。
その際、差し支えなければ簡単な相談内容も書き添えてください。
折り返し、相談日時などについてのメールをさしあげます。

新刊紹介



『入門 観光学【改訂版】』
竹内正人 他編著／
山田勲之(本学教員) 共著
2024年2月／ミネルヴァ書房

『現代中国を知るための54章
(エリア・スタディーズ8)』
藤野彰他 編著／
佐藤千歳(本学教員)共著
2024年2月／明石書店



『中国年鑑2023』
佐藤千歳(本学教員)共著
2023年5月／中国研究所

1 行事予定

6/16 日	オープンキャンパス	9/18 日	4年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)
6/29 土	2年次所属学科選択「志望学科届」回答期限	9/19 日	全学年履修登録訂正日
7/17 日	振替講義日(月曜日)	9/21 土	後期講義開始
8/3 土	前期講義終了	9/29 日	オープンキャンパス
8/3 土・4 日	オープンキャンパス	10/16 日	振替講義日(月曜日)
8/5 日	夏季休業開始、前期・成績開示	10/19 土～30 日	履修登録科目の取消受付
	2年次所属学科発表	10/25 日	総合型選抜(Ⅰ期)会場設営日
8/5 日～8 日	前期・成績異議申し立て受付[オンライン]	10/27 日	総合型選抜(Ⅰ期)試験日
8/13 日～16 日	全学休業日	11/5 日	振替講義日(月曜日)
8/22 日	海外語学留学生出発【韓国】(予定)	11/9 土	出席不良者後期修学指導面談
9/1 日	海外語学留学生出発【中国】(予定)	11/22 日	学校推薦型選抜(指定校制・公募制)・特別選抜(海外帰国生徒)会場設営日
9/7 土	卒業延期者前期修学指導面談(予定)	11/24 日	学校推薦型選抜(指定校制・公募制)試験日
9/10 日	夏季休業終了		特別選抜(海外帰国生徒)試験日
9/11 日	各センターガイダンス(予定)	12/13 日	総合型選抜(Ⅱ期)・学校推薦型選抜(併設校)会場設営日
9/12 日	1年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)	12/15 日	総合型選抜(Ⅱ期)試験日
9/12 日・13 日	北海商科祭準備日(予定)		学校推薦型選抜(併設校)試験日
9/13 日	2年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)	12/27 日	冬季休業開始
9/14 土	北海商科祭(予定)	2025/1/8 日	冬季休業終了
9/17 日	3年次履修相談/登録日/修学指導面談(成績不振者)		